

## 第18回 熊野川懇談会 議事骨子

開催日時／場所 令和4年1月21日（金）10：30～12：00／Web 開催  
出席者 委員 12名 3名欠席（別添 熊野川懇談会委員名簿 参照）、河川管理者等 7名

前回の熊野川懇談会に引き続き、令和3年12月15日に公表を行った「新宮川水系（熊野川）熊野川河川整備計画（原案）」について、意見交換を行った。

### 1. スケジュールについて

次回懇談会において、「新宮川水系（熊野川）熊野川河川整備計画（原案）」に対する懇談会委員からの意見およびパブリックコメント・公聴会での関係住民意見を集約し、原案に対する対応方針を報告することが確認された。

### 2. 新宮川水系（熊野川）河川整備計画（原案）について

新宮川水系（熊野川）河川整備計画（原案）について、懇談会委員から幅広くご意見を伺った。

### 3. その他

第18回熊野川懇談会のニュースレターについては、閲覧用に設置のみとし、配布は行わないことが確認された。

以上

◆委員からの主なご意見（■委員からのご意見）

＜「新宮川水系（熊野川）河川整備計画（原案）」について＞

■洪水に対して、新たにダムを造るとか、大堤防を造るのではなく、なるべく自然に合った河床掘削という方法としているので、その方向で良い。流域全体を考えて、人の住む場所、山の管理もしていくという事でいけば良いと思う。

■熊野川が交易、物流の経済の川として機能したということが非常に重要だと思うので、初めのところでもいいから盛り込んでもらいたい。

■危機管理が一番大事だと思う。命があってこそだと思うので、1秒でも早く、1メートルでも高くまずは逃げるということを啓蒙運動していくと良い。

■基本方針と整備計画の関連で、この先どうするのかということも書くことができないのかなと思う。基本方針は、相賀地点において24,000m<sup>3</sup>/sというふうに定められていて、河道への配分が23,000m<sup>3</sup>/s、洪水調節施設等による調節流量が1,000m<sup>3</sup>/sというふうに基本方針に定められている。整備計画では、河道に配分された23,000m<sup>3</sup>/sを計画として進めていこうという上で、そのうちの22,000m<sup>3</sup>/sは堤防整備、河道掘削等によって進めていく。あとの1,000m<sup>3</sup>/sは、中々30年間では対応できないということなら、この先どういうふうに考えていくかということがもし書けると、河川整備基本方針との関係がより明確になるかなというふうに考える。

■河川整備基本方針と整備計画との関係、流量の関係、整備計画の目標流量が流れたときにどれぐらい水位が上がるのか、堤防がどうなるのか、住民の方にとってはそちらのほうが分かりやすいし、関心があると思う。そのあたりも含めて、より具体的に64ページに記述したほうが良い。

直轄の管理区間だけではなくて、県管理区間も含めて整備計画後の熊野川の全体像をイメージできるような、記述になってはいないと思う。住民の方にとって、整備計画で整備が進んでいったら熊野川はどうなるというのが、直轄区間だけじゃなくて、県管理区間も含めてもう少しイメージできるような記述になると良い。

■人工林については、間伐が一番大事で、林内に十分な光を入れて下層植生を促進していく。健全な森林では、CO<sub>2</sub>の吸収の増大が期待できるし、山林崩壊の危険性の制限が期待できる。また、生物の多様性の保全にも貢献できるので、森林の施業管理についてはそういうようなところを入れてもらいたい。

■デジタルトランスフォーメーションという言葉が使われているが、今の河川管理の仕事をどうしたいということがまずあって、そこを今の情報技術でこうする、場合によっては組織も変えるといった書き方をしないと、流行り言葉がただ単に入っているというだけの印象になる。

■土砂の生産から河口域もしくは海岸までの土砂動態と管理について、何をどういうふうに管理するのかということがもう少し分かりやすく図表を使って書かれていると良いと思う。

総合的土砂管理で難しいのは、様々な責任者、セクターが関連しているということで、本文の75、76ページに記述があるが、そこも図表の中に明記したほうが明確になると思う。具体的には河川管理者の県と国、海側の管理者の県と国が何についてどう連携するのかというのがより明確に書いてあるとより説得力がある。

■土砂管理といっても、なかなか難しい書きにくい部分がたくさんあると思うが、熊野川の土砂管理における理念や、上流から河口までの土砂管理の具体的なことを早急に検討していくとか、これからどういうふうに進めていくかということ、流域の皆さんと一緒にこの熊野川のあるべき土砂管理の姿を考えていくとか、その辺でもいいのかと思います。

■最下流域で絶滅危惧種の生息環境の創出ということがうたわれているが、かなり困難が伴う。ぜひ各生物の専門家の人と意見を十分に交わして、慎重に進めてもらいたい。

■掘削によって流量を確保するという事で、海水の遡上によって魚類相が変化するという事を一番心配している。

■砂州について、今後どういうふうにしていくのか。

■計画規模を超える洪水や整備途中に起こる洪水に対しては、流域治水として全体でなるべく対応を行うようにするという事だが、流域治水に国がどう関わっていくのかということも、もう少し明確に書けないか。

資料1 熊野川懇談会委員名簿

(五十音順・敬称略)

| 氏名                    | 専門分野               | 所属                                    | 備考    |
|-----------------------|--------------------|---------------------------------------|-------|
| い い ひろゆき<br>井伊 博行     | 水循環、水質             | 和歌山大学 システム工学部 教授                      |       |
| い す み もろと<br>泉 諸人     | 歴史・文化、<br>観光、林業    | 浦島観光ホテル株式会社 取締役<br>浦木林業株式会社 代表取締役     |       |
| か し き たかみつ<br>加治佐 隆光  | 水資源工学              | 三重大学大学院 生物資源学研究科 教授                   | 欠席    |
| き し が み みつよし<br>岸上 光亮 | 農業経済、<br>地域政策      | 和歌山大学<br>食農総合研究教育センター 教授              | 欠席    |
| きよかか ゆきこ<br>清岡 幸子     | 地域の特性に詳しい<br>(新宮市) | 元新宮商工会議所女性会 会長                        |       |
| たかす ひでき<br>高須 英樹      | 植物、生態系             | 和歌山大学 名誉教授<br>和歌山県立自然博物館 館長           |       |
| たきの しゅうじ<br>瀧野 秀二     | 水生生物、植物            | 熊野自然保護連絡協議会 会長<br>熊野川 河川水辺の国勢調査アドバイザー | 委員長代理 |
| たちかわ やまと<br>立川 康人     | 水工学<br>水文・水資源学     | 京都大学大学院 工学研究科 教授                      |       |
| なかしま ちよとせ<br>中島 千登世   | 地域の特性に詳しい<br>(新宮市) | 河川を美しくする会 副会長                         |       |
| はやさか とよし<br>早坂 豊司     | 広報・報道              | 株式会社テレビ和歌山 報道制作本部長                    | 欠席    |
| ふじた まきはる<br>藤田 正治     | 河川・砂防、<br>森林工学     | 京都大学 防災研究所 教授                         | 委員長   |
| まつお なおき<br>松尾 直規      | 河川水質               | 中部大学 名誉教授                             |       |
| もり のぶひと<br>森 信人       | 海岸防災工学             | 京都大学 防災研究所 教授                         |       |
| やまもと しげお<br>山本 殖生     | 熊野の歴史・文化<br>・信仰    | 国際熊野学会 代表委員<br>熊野三山協議会 幹事             |       |
| よこた ひろし<br>横田 浩       | 発電水力、<br>水源地域対策    | エネルギー戦略研究所株式会社 取締役                    |       |